

Sport  
Godzilla®

# スポーツ ゴジラ®

第 55 号

無料

特集  
戦争とスポーツⅡ



スポーツくら

toto

BIG

スポーツ振興くじ助成事業

「ゴジラ」は東宝株式会社の登録商標です。  
『スポーツゴジラ』は、日本スポーツ学会が  
商標使用の許諾を受け、スポーツネット  
ワークジャパンが発行しています。

|    |                                            |                |
|----|--------------------------------------------|----------------|
| 2  | 第55号を発刊するにあたり                              | 長田 渚左          |
|    | ■特集■<br>「戦争とスポーツⅡ」                         |                |
| 4  | スポーツがひたすら戦争の犠牲者だった時代に<br>別れを告げるために         | 坂上 康博          |
| 7  | ロシアのスポーツとナショナリズム<br>〜トルストイからプーチンまで — 岩本 和久 | 構成<br>玉木 正之    |
| 16 | 奪われた夢                                      | 斉藤 佑介          |
| 19 | 「戦没オリンピック名簿」の今                             | 曾根 幹子          |
| 25 | 今、語る被爆体験 — 張本 勲                            | 取材・構成<br>西本 祥子 |
| 33 | 戦争とスポーツ年表                                  | 阿部 雄輔          |
| 36 | ワールドゲームズって何?! — 師岡 文男                      | 構成<br>木村 元彦    |
| 46 | 『走』第2回 未来の「走り方」は過去のなかにある!?                 | 玉木 正之          |
| 47 | 夢劇場『馬』No.27「爽やかな2分」                        | 長田 渚左          |
| 48 | バックナンバーのご案内                                |                |

南 伸坊 表紙のつぶやき

「昭和30年代の横綱の面子（めんこ）です。面子遊びはヘタでしたが、栃錦や千代ノ山は大好きでした。最近、『あっという間』という本を出版しました」

スポーツネットワークジャパンHP <http://sportsnetworkjapan.com/>  
バックナンバー第43号～54号はホームページからも読みいただけます。

『スポーツゴジラ』は、種目を問わずスポーツそのものの魅力や  
価値を語るスポーツ総合誌（フリーペーパー）です。

## 第55号を発刊するにあたり

編集長 長田 渚左



ロシアがウクライナへ軍事侵攻したというニュースに、耳を疑った人は少なくなかっただろう。

私自身も「まさか?」と言葉を失った。しかも、北京パラリンピック開幕を目前に控えた時期。またしても「オリンピック休戦」を無視したロシアに対して、二重の怒りを覚えた。

日本スポーツ学会と、本誌スポーツゴジラを刊行するスポーツネットワークジャパンは、オリンピックの平和運動を尊重して「オリンピック休戦」を呼び掛ける署名活動を、度々行ってきた。

そもそもスポーツゴジラの創刊も、世界中でテロ事件が相次いでいた2004年に、オリンピック開催地のアテネ（ギリシャ）の地元紙に、オリンピック休戦を呼び掛ける全面広告を出したのがきっかけ

だった。アテネ初の女性市長ドーラ・バコヤニ氏と、柔道オリンピック金メダリストの山下泰裕氏が、世界平和を訴えるメッセージの掲載だった。

2022年5月20日、国際オリンピック委員会（IOC）は、ロシア軍の侵攻でウクライナのスポーツ選手51人が亡くなったと報告した。

これからもスポーツゴジラは世界平和への強い思いを込めて、スポーツを通じた反戦を訴え続ける。

**Ancient people laid down their arms for the duration of the Olympics**

**Yasuhiro Yamashita**  
Olympic medalist in Judo, Los Angeles 1984

**Dora Bakoyannis**  
Mayor of Athens

Through competing in Judo, I made friends all over the world. Sports should not be used as a surrogate for anything else. The Olympic Games do not seem to want to have two many medals a winning game. They are a place for making friendships by understanding one another - an understanding that comes through recognizing and accepting each other's differences.

In Athens, where the original Olympics were held, we need to reconsider the genuine spirit of sports. Not to think about only yourself. Not to chase personally. We do not want to forget to respect each other. Personal greed doesn't require of medals. Recognizing the achievement of others is one important factor that makes us grow.

The Olympic idea is to fulfill our dreams and to appreciate the world we live in. I hope that the current conflict on our planet, and the Olympic are held in peace.

I hope, Greece and so many other nations have suffered the consequences of war. Too many of our people have already paid the highest price in the name, not of respect, but of our inability to understand and respect each other and talk our way through issues that divide us.

The summer Games and Olympic begin to bring together people from across the globe in a spirit of friendship and cooperation. We aspire to enhance the contribution of Olympics to humanity for the sake of world peace and stability.

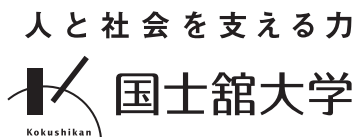
This is a real message that athletes want to send to the whole world. Nations do not want to live under any kind of fear, but to be tolerant, the threat of war without anything their leaders are front-endoring peaceful competition in an atmosphere of security and serenity.

We All hope that the world will become peaceful.

ご協賛およびご協力企業・団体



WOWOW



文藝春秋



立ちどまらない保険。

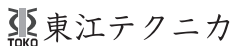


三井住友海上



株式会社東美物流

JWCPE 日本女子体育大学



公益財団法人  
住友生命健康財団



(順不同)

## ■戦争とスポーツII ■

# スポーツがひたすら 戦争の犠牲者だった時代に 別れを告げるために

ロシアのウクライナ侵攻は、スポーツ界の戦争への向き合い方を大きく変えた。国連の「五輪休戦決議」を盾にして、国際オリンピック委員会（IOC）を中心にスポーツ界が結束し、ウクライナ侵攻を阻止するための積極的な行動に打って出たのだ。

五輪休戦決議とは、IOCの働きかけによって、1993年以降、毎回国連総会で採択されてきたもので、最近では五輪開幕1週間前からパラリンピックス開幕1週間後までを「五輪休戦」の期間と定め、この間に平和的な手段によって紛争が解決されるようあらゆる努力を払うことを加盟国に求めている。これは、「人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社

会の推進を目指す」という五輪の目的を体現したものであり、今回の北京冬季大会では、ロシアを含めた173か国が共同提案国となっていた。

ロシアのウクライナ侵攻は、パラリンピックス開幕の直前、まさに「五輪休戦」の只中になされたものだ。休戦決議を土足で踏みにするロシアの行動に対し、IOCは声明を出してロシアを強く非難するとともに、ロシアとそれを支援したベラルーシでのスポーツイベントの開催禁止や国際大会での両国の国旗・国歌の使用等を禁止した。さらにIOCは「ロシア政府の極めて重大な五輪休戦決議違反および五輪憲章違反」を根拠にして、プーチン大統領らへ授



坂上康博

与した五輪オーダー（功労賞）の最高位・金賞を剥奪するという前例のない決定を下した。

それだけではない。IOCはロシアとベラルーシの選手、役員を大会から排除するという最も厳しい制裁措置を各競技の国際連盟（IF）に求めたのである。これに多くのIFが即座に反応し、たとえば国際サッカー連盟は、すべてのロシア・チームを大会から排除するとともに、「サッカーが再び人々の団結と平和のためのベクトルとなるよう、ウクライナの状況が大幅かつ迅速に改善されることを望んでいる」との見解を打ち出した。

「政府の行動を理由にアスリートに制裁を科すことは私の意に反する」。世界陸連のセバスチャン・コー会長は、こう断言する。しかし、世界陸連もまた早々とロシアとベラルーシの選手の大会から排除を決めた。なぜなのか。これは政治家によるスポーツの利用ではなく、また、企業や国際機関によるロシアに対する制裁とも違う、「スポーツ自らが、この

戦争を終わらせ、平和を取り戻すために必要な取り組みである」というのがコー会長の見解だ。

国際パラリンピック委員会（IPC）が、北京パラリンピックからロシアとベラルーシの選手を排除することを決定したのは、開会式前日の3月3日だった。この突然の方針転換は、多くの国のパラリンピック委員会や選手からの抗議やボイコットの声もたらしたものだ。たとえば「ウクライナ代表選手団とグローバルアスリートによる共同声明」は、「昨日〔3月1日〕、19歳のウクライナ人バヤスロン選手イエフェン・マリシェフが、ロシアの攻撃から国を守るため、ウクライナで戦闘中に死亡した。スポーツが意味のある制裁を行うには、あと何人の命が失われなければならないのだろうか」といった切実な訴えや「ロシアとベラルーシ当局は、この大会への選手の参加を国家のプロパガンダとして利用する」といった強烈な批判で埋め尽くされている。

## 休戦決議は五輪の生命線

もうひとつ注目すべき点は、IPCが休戦決議違反による制裁を実施するための法的な規定をもっておらず、それゆえ土壇場まで選手への制裁を躊躇したことである。国連総会の休戦決議にはそもそも法的拘束力がないが、IOCもIPCも制裁措置を定めていなかったのだ。思い出してほしい。ロシアは、2008年の北京五輪、14年のソチ冬季五輪でも、「五輪休戦」の期間中に軍事侵攻したが、この時、IOCもIPCも制裁はおろか非難声明すら出さなかった。二度も目をつぶってきたのだ。

休戦決議は、国際的な平和運動である五輪にとつて、生命線ともいえるべきものである。その実効性を高めるために違反に対する明確な制裁規定を設けるべきである。たとえば五輪憲章に「五輪休戦決議に違反した国や地域のオリンピック委員会とその選手を五輪から排除する」と明記する。そして国家によ

る戦争にくみしないアスリートを守るために「政府の軍事行動に同意しない等の意思表示を条件に参加を容認する」という救済規定を設ける。IPCのアドリュー・パーソンズ会長は、北京パラリンピックから排除したロシアとベラルーシの選手を「政府の行動の犠牲者」だと言った。そうした犠牲者を出さずに、同時に戦争に対する抑止力を高めることが求められているのである。

IOCとIPCは、アスリートたちの意思を結集して戦争に立ち向かうセンターとして、そのパワーアップをはかるために法的整備を早急に進めなければならぬ。スポーツがひたすら戦争の犠牲者であった時代に別れを告げるために。

本稿は、拙稿「休戦決議に抑止力を」（共同通信3月20日配信）を加筆修正したものである。

坂上康博（さかうえ やすひろ）1959（昭和34）年、大阪府和泉市生まれ。一橋大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。1989年より福島大学行政社会学部、2009年より一橋大学大学院社会学研究科で教鞭をとり、本年4月より一橋大学名誉教授・特任教授。著書に『権力装置としてのスポーツ』（講談社）、『スポーツと政治』（山川出版社）、共編者に『東京オリンピック1964の遺産』（青弓社）など。

戦争とスポーツⅡ

ロシアのスポーツとナショナルリズム  
～トルストイからプーチンまで～

構成 岩本和久  
玉木正之



赤の広場でのスポーツパレード

出典:<https://jp.rbth.com/arts/83663-1930-nendai-roshia-joyosei-oyosoi>



映画「DAU. 退行」で描かれる特別実験

出典:<https://www.transformer.co.jp/m/dau.degeneration/intro.html>

本稿は2022年4月2日に行なわれた日本スポーツ学会「スターセミナー・9回」をもとに構成しました。



**岩本 和久** (いわたもと かずひさ) 1967(昭和42)年、神奈川県生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科修了。札幌大学教授。専門はロシア文学・文化。著書に『フロイトとドストエフスキー—精神分析とロシア文化』(東洋書店)、『沈黙と夢—作家オレーシャとソヴィエト文学』(群像社)、『トラウマの果ての声—新世紀のロシア文学』(群像社)、『スポーツの世界史』(一色出版、共著)、訳書にペッペルシテイン『地獄の裏切り者』(水声社)

私は『スポーツの世界史』（二色出版）のなかで「ソヴィエト／ロシア——スポーツ大国の成立と再生」という章を執筆しました。ロシアのスポーツも他の多くの国々のスポーツと同じように、日常生活から離れて遊びの要素があるという共通点がある一方、やはりロシアならではの特色もあるわけです。

日本に武道とか相撲があるようにロシアにもロシアならではの特徴を帯びたスポーツ文化が存在し、国際試合ではスポーツがロシアの民族的統合や国民的統合に利用されたり、富国強兵に利用され軍国主義ミリタリズムと関わってきた歴史もあります。

では、ロシアのスポーツにはどんな特徴があるのかということをも、まず近代スポーツがそれほど国家と結びついていなかった時代、和やかなスポーツの時代から語り始めます。そこで取りあげたいのがトルストイの『アンナ・カレーニナ』という有名な小説です。それは1875年から77年、日本では明治時代の初めの頃（明治8～10年）に書かれた小説で

すが、スポーツの描写がたくさん登場します。

トルストイといえは髭を生やしたお爺さんの肖像画が有名ですが、実は非常にスポーツマンで、自宅の敷地にテニスコートを造ったり、筋トレをしたり、老いてからも当時一般的に普及し始めたばかりの自転車自転車の練習を始めた人でした。ですから『アンナ・カレーニナ』にもスポーツが数多く登場します。競馬を見に行ったり、みんなでテニスをしたり、男女がスケートでデートをするシーンなどですが、それらはすべて社交の場だったんですね。たとえば競馬は、皇帝や貴族たちの前で軍人たちが勇敢に競走して勝利の栄光を掴つかんだり、逆に落馬して命を失うような危険な場でもあったわけですよ。

社交のなかで始まったロシアのスポーツは、20世紀に入って国家のあり方が変わってくるなかで、ロシアの文化において結構大きい役割を果たすようになります。が、1917年のロシア革命の前の帝政時代のロシアでは、まだスポーツは発展しませ

ん。ロシアはヨーロッパの東の端の国ですから文化が遅れて入ってくる後進国です。オリンピックも1908年の第4回ロンドン大会に個人参加で初出場するのですが、それほど活躍できませんでした（金1銀2で12位。1位はイギリスの金56銀51銅39）。続く第5回のストックホルム大会には大選手団を構成して臨みますが期待された金メダルは取れず、銀2銅3（16位）の結果に終わってしまいます。

1914年から第一次大戦が始まり、その最中にロシア革命が起こりソビエト連邦の時代になると、オリンピックには出なくなりです。ソビエトのスポーツは国際的に勝てないと思える一方、社会主義は資本主義に優越してはいくけないので、オリンピックはブルジョア文化で否定すべきものという考えから、労働者のオリンピック運動として独自にスパルタキアードという労働者のスポーツ大会と銘打ったイベントが創られます。最初はソビエト連邦内の全国大会みたいなものですが、第二次大戦

でソビエトはナチスドイツを破り、その結果東欧やアジアにも社会主義国が沢山生まれ、世界が冷戦体制に突入するなかでスパルタキアードは、共産主義国家による国際大会として大きくなります。

### 世界で最初の社会主義国

冷戦というとソビエトが孤立していたと思う人がいますが、それは第二次大戦前のことで、世界で最初に生まれたばかりの社会主義国は、得体の知れない悪魔の国のように見られました。が、第二次大戦後は国連の常任理事国にもなり、国際社会で無視できない存在になります。スポーツの各種国際大会にも参加して徐々に好成績を残すようになり、オリンピックでも勝てそうだと、戦後2度目の1952年ヘルシンキ大会に出場。アメリカ（金40銀19銅17）に次ぐ2位の成績（金22銀20銅19）を残します。そこからソビエト連邦は、一気にオリンピックにのめり込んでいくわけです。

少し<sup>さかのぼ</sup>遡<sup>さかのぼ</sup>って社会主義国家が生まれた直後のソビエト連邦のスポーツを振り返ってみると、少々不思議な世界が広がっていることに気がきます。

レーニンによる革命が成功した直後のソビエト社会では、資本主義社会とは異なる新しい人間を創造しなければならぬ、新しい人間を開発しようというSF小説のようなことが考えられました。それは反レーニンの小説家として、20世紀のペレストロイカの時代になるまで抹殺されていた小説家ザミヤチンの『われら』という作品にも描かれているような世界で、千年後の地球を支配する単一国家が「人間改造」を目指すのですが、革命後7年経ってレーニンが亡くなりスターリンの時代になると、そんな夢想は消え、アメリカの大衆文化が栄えるような社会になります。スポーツの世界ではパレードの流行となり、赤の広場やスタジアムなどで、アスリートによるパレードが盛んに行われるようになります。

パレードとともに流行したのが、サッカー観戦

です。サッカー・チームのユニフォームが女性のファッションに取り入れられたり、サッカーを描いた映画がヒットしたり、さらに近代的な街造りとして高層ビルと同時にサッカー場を建設したり、プールを造ったり。それらのスポーツ施設をつなぐように地下鉄も造られ、駅がスポーツマンを描いた絵画で埋め尽くされるようになります。ディナモというサッカーチームはFSB（ロシア連邦保安庁）やKGB（ソ連国家保安委員会）の前身である治安機関OGPU（国家政治保安部）のチームで、スタジアムは1928年に完成しました。日本の本田圭佑選手も所属したことのあるチェスカは元は軍隊のチームで、警察のチームや鉄道員のチームなども生まれ、地下鉄のマヤコフスカや駅にはアレクサンドル・ディネカというこの時代を代表する画家による大きなスポーツ画が飾られ、トレチャコフ美術館には今も彼の描いたゴールキーパーやマラソンの絵画があります。彼は第二次大戦後には戦争画を描くの

だが、パレードやサッカー場やスポーツ絵画も、ソビエト連邦の軍国主義と結びついて発展しました。最近プーチン大統領がウクライナへの軍事侵攻のあとにクリミア併合の記念式典を行った巨大なルジニキ・スタジアムも、スターリン時代に計画され、彼の死の3年後の1956年に完成したものです。

そんなふうに国家と結びついたスポーツが発展するなかで、GTOという体力測定が1931年に創られます。GTOはロシア語 Gotov k trudu i oborone の略で「労働と防衛の備え」という意味です。ですから短距離走や中距離走、高跳びや幅跳びや水泳、自転車やクロスカントリイといったスポーツ競技も取り入れられましたが、手榴弾投げや射撃、「32kgの弾薬箱を担いだ50mの歩行」「ガスマスクを着けての1kmの騎馬」など国防色の強いものもあり、それぞれ年齢に応じた基準をクリヤーすると、金銀銅のGTOメダルが授与されました。これは1991年のソビエト連邦解体で廃止されたので

すが、2013年にプーチン大統領が復活させたのには驚きました。あとで話しますが、そのような国家主義的なスポーツのあり方が、現在のプーチン体制でのスポーツ振興の特徴とも言えますね。

### 神話と捏造<sup>ねつぞう</sup>

こうしたなかでスポーツが国民的に神話化されていった側面にも触れたと思います。

「ゴールキーパー」という1936年に制作された映画があります。日本では全然知られていませんが、普通の労働者の若者のゴールキーパーの才能が凄いことがわかり、あるサッカーチームに入って大成功する映画です。チームは失点しないからどんどん勝って強くなり、最後は国際試合にも勝つ。

これはカッシーリというスポーツ作家の小説『共和国のゴールキーパー』が原作ですが、ゴールキーパーというゴールを守る存在が、国を守るという役割にもつながるわけです。もともと、ある試合で

ゴールキーパーが味方の選手がいらないと思ったら、選手たちが次々と青い空からパラシュートで降りてくる。第二次大戦前のロシアのスポーツ映画は、ミタリズムも明るところがあつたのですね。

しかし第二次大戦が始まると、ナチスドイツの収容所に入れられたロシア人たちがナチスのチームとサッカーで戦つて勝利するといった映画が作られます。最終的には全員処刑されてしまう「死のマッチ」ですが、敵国への勝利が神話化されるようになります。それは1972年のミュンヘン五輪でのバスケットボール決勝、アメリカ相手の試合終了3秒前の大逆転優勝とか、同じ年にカナダのアイスホッケーのプロチームにソ連のアマチュアチームが挑戦。8試合を戦い、最終的にはカナダの4勝3敗1引き分けとなりますが、初戦に勝利したことが、ロシアのスポーツ史のなかで語り継がれています。

そのようにナチスドイツやアメリカ、カナダといった「敵国に対する勝利」が神話化されて残され

るのも、ロシアのスポーツ文化の特徴と言えますが、ロシアの民族性を色濃く見出せるスポーツとして「ステンカ・ナ・ステンク」という直訳すれば「壁対壁」と呼ばれる「村中の男たちの殴り合い」の格闘文化があります。男たちが横一列に並んで歩き出し、同じように並んで歩いてきた男たちと衝突して殴り合うバトルロイヤルのような戦いです。みんなの力が尽きたら終わるこの「殴り合い」は、「春の祭典」と言えるお祭りです。ロシアはアレクサンドル・カレリン（五輪3大会連続金メダル）など、名だたる格闘家を数多く生んでいます。その背景に伝統的な格闘文化があるとも言えそうです。

またロシアの格闘技としてはサンボが有名ですが、これはサハリン生まれのワシリー・オシエプロフという人物が、20世紀初頭に東京の講道館で嘉納治五郎に柔道を習い、それをロシアに伝えて生まれたものです。が、日本の柔道が起原というのは良くないということで、柔道起原説は抹消され、ロシア

帝国とソビエト連邦内の様々な民族の伝統的格闘技のいいところを取り入れて創られたのがサンボだという神話が捏造<sup>ねつぞう</sup>されています。

## スポーツ政策とパワハラ

そんなロシアのスポーツ事情のなかでプーチンという大統領は、スポーツを国家的な行事として振興しようとした。その最初の国家行事として2012年のオリンピック招致に動くのですが、それはロンドンに敗れます。が、2013年にはモスクワで世界陸上を開催し、同じ年に先程お話ししたGTOを復活させます。そして夏季五輪に代わって2014年のソチ冬季五輪を開催。さらに2018年のFIFAワールドカップも成功させます。

このようにメジャーな国際大会を次々と開催したのですが、ソチ冬季五輪で国家ぐるみと言われるドーピングが発覚。大スキャンダルになります。これはソチの前のバンクーバー大会で金メダルが3個

に終わったので（銀5銅7＝11位）ソチでは何とかその数を増やそうとしたからでしょうが、メダル獲得には成功しても（金13銀11銅9＝1位）その後、「国家ぐるみのドーピング」が発覚して金2、銀2個が剥奪され、続く平昌、北京の冬季大会と16年リオ、20年東京の夏季五輪でもロシアは国としての出場が禁止。国旗も国歌も使えなくなりました。

このドーピング問題と同時にコーチの問題も発覚します。先日の北京冬季大会でもフィギュアスケートで世界最強と言われながら、ドーピング疑惑が騒がれて何度も失敗したカミラ・ワリエワ選手に対してエテリ・トウトベリーゼというコーチの強く叱責する姿がテレビ映像にも映し出され、バツハIOC会長までが批判する一件がありました。が、それ以前にもロシアのスポーツ界では、新体操界のドンと言われたイリナ・ヴィネルという女性コーチがいました。彼女のコーチングは非常に厳しいパワハラと言えるもので、その様子は「オーバー・ザ・リミッ

ト新体操の女王マムーンの軌跡」という映画にもなり、日本を初め全世界で公開されました（今もネットで見るができます）。彼女自身もその映像を初めて見たときはさすがに公開されたことに怒ったらしいのですが、やはり信念があるのか、のちに公開してもいいと許可したのです。しかし、そのあまりにも厳しいコーチのやり方にはロシアのマスコミも驚き、大批判の声があがりました。

とにかくどんなことをしてでも国際試合に勝利してロシアの国威発揚を……というのがプーチンのスポーツ政策と言えますが、その問題点をわかっているロシア人もいて、たとえば2017年には映画監督のアンドレイ・ズビャギンツェフが「ラブレス」という作品を発表しました（カンヌ映画祭審査員賞他数々の賞を受賞）。それは両親が二人とも不倫していて子供が行方不明になり、多分死んだと言う父親はさつさと不倫相手と結婚。母親も不倫相手と再婚し、子供のことなど忘れて健康と美容に夢中にな

り、トレッドミル（電動ランニングマシン）で走り続けるといのがラストシーンなんですが、その横のテレビ画面に2014年のロシアのクリミア併合のニュースが流れます。母親はロシアのナショナルチームのスポーツウェアを着て走り続けるんですが、そのエゴイスティックなスポーツの象徴的な姿は、ロシアのウクライナ侵攻のようなプーチンの独善的なやり方に対する強烈な批判になっています。

また、「DAU. 退行」という2020年に日本を含む世界で公開された6時間もの長さの映画があります。これはソ連の雪解けと言われた時代にロッキが好いでビートルズを聴いてるような軟弱な若者が、肉体を鍛えることによって人間性を失い、殺戮兵器のような軍人に変わっていくというショッキングな映画で、実際にあったランダウ理論物理研究所をモデルにして（ノーベル賞を受賞した物理学者レフ・ランダウの渾名がDAU）、所長役にはKGB出身の人物、ネオナチに変わってゆく若者も本当の

ネオナチの人物が演じるという実験的な映画です。先にお話したロシア革命直後の「新しい人間」を創ろうとした動きと、プーチン・ロシアの現代のマッチョ志向の社会がオーバーラップして批判的に描き出されているわけです。

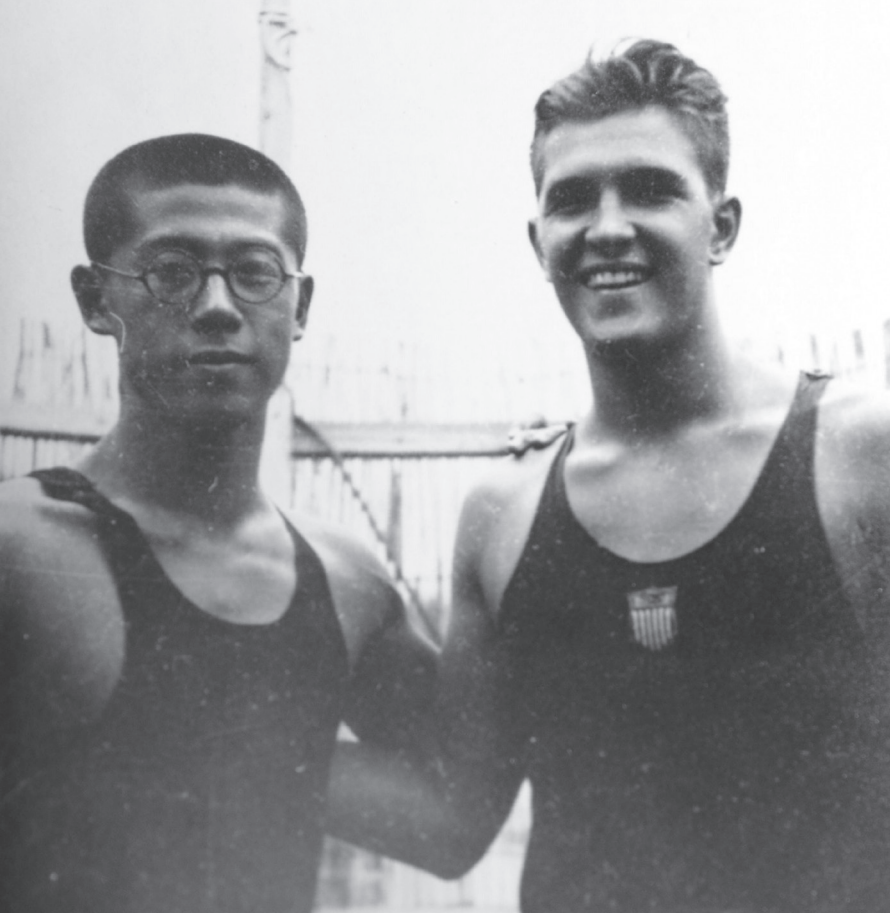
### 変わるのか、変わらないのか

20世紀のエリツィンの時代までのロシアは大酒飲みの国で、パーティではみんな酔いつぶれるまでウォッカを飲んでいました。が、最近20年のプーチン・ロシアでは健康志向がものすごく強く、お酒を飲む人もほとんど減っています。プーチンも彼を支える人たちも酒は一滴も飲みません。ヒトラーも酒は飲まなかったそうですが、そんな健康志向の行き着く果てが身体を痛めるドーピングというの不思議ですが、わかるような気がします。ボディビルやフィットネス、美容やダイエットでも最後にはクスリに頼るようになることもありますからね。

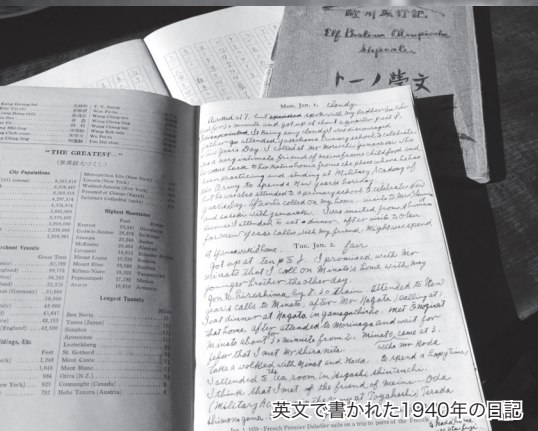
ソ連が崩壊した直後は、ロシアのスポーツも終わった感がありました。90年代は国のサポートもなくなり優秀なコーチがすべて海外に流出してしまつたのです。エリツィンはテニスが大好きで、マリヤ・シャラポワなどアメリカに渡って世界で活躍する選手も出てきましたが、みんな自分の力で勝手にやっていたのがプーチンの時代になって、スポーツは国ぐるみで取り組むようになったのです。

極端なまでの健康志向の社会で、エリート・アスリートは国家の威信を賭け、勝利至上主義でナショナリズムと結びつく。プーチンはスポーツを利用して古代スパルタのような国を創りたかつたのでしょうが、そういう姿は、やはり純粋に楽しみを求める本来のスポーツの姿とは違うと思います。それが将来、どのように変わるのか？ あるいは変わらないのか？ オリンピックや国際的なスポーツの場から排除されるようになったロシアが「普通の国」になり、国際社会と交流する日は訪れるのでしょうか？

# 奪われた夢



児島泰彦氏と金メダルを獲得したアドルフ・キーファー選手



甥の正雄さん

## 斉藤佑介



斉藤 佑介(さいとう・ゆうすけ)

1982(昭57)年、宮崎県生まれ。朝日新聞名古屋報道センターの遊軍記者。3月まで東京社会部で、東京五輪・パラリンピック大会組織委員会を担当し、大会の準備から本番まで追った。高校から水泳を始め、3年時の県大会で当時1年生ながら全国に知られた五輪メダリスト松田丈志さんの泳ぎを見て、圧倒された

5月15日、沖縄の本土復帰から50年を迎えた。かつて、17歳でベルリン五輪に出場し、東京五輪をめざしながら沖縄戦で命を落とした青年がいた。

1936年夏。17歳の大学生がノートにつづった日記を読むと、陸路でベルリンまで向かう「道のり」の険しさが伝わってくる。

〈パンでもスッパイ香<sup>かおり</sup>がして来る。小生は身体の状態が悪い。食後に茶が出るのでそれを唯一の楽しみに食堂に行くのであった〉

〈満洲里あたりから熱が始め、シベリア鉄道の乾燥と振動（略）それに水、食べものの不便から長続きし、ベルリンに着いても（略）別の部屋で約2週間足らず寝ていた。その苦しみといったら實際言い難いものだった〉

「欧州旅行記」に記されたシベリア鉄道の様子だ。筆者は、当時慶応大1年生の児島泰彦。ベルリンオリンピックの日本代表で、「水上軍」と呼ばれた競泳チームの最年少選手だ。

1936年6月11日に日本を出発した児島は、シベリア鉄道で1週間かけてユーラシア大陸を横断。長旅でベルリンに着いたのは6月26日だった。

長旅は、17歳の体をむしばんだ。一時40度ほど発熱したといい、寝床を離れて歩けるようになったのは7月7日で、体重も減ったという。旅行記には現地での歓迎ぶり、日本代表選手たちの活躍、地元・広島県坂町への思いもつづられている。

8月1日の日記。ナチス・ドイツ下で開かれた五輪の開会式で目にした光景をこう書いた。

〈ヒットラーが我々の前を通られた。スタジアムの中の騒ぎと言ったらない〉

8月12日、100m背泳ぎに出場し、14日の決勝にこぎ着けた。だが、結果は米国アドルフ・キーマー選手が金メダル、児島は6位だった。

〈唯<sup>ただ</sup>運を天にまかせてかかることにした。病後でちようど疲れが出て、ホーム（フォーム）がとちらず、それに清川（正二）、キーファアの間にはさ

まれていたことが弱点であった」

〈涙が出そうであったが何も仕方がない〉〈本当に小生を期待せる人々に対してすまない感じがした〉

周囲は4年後に期待していた。ベルリン五輪200m平泳ぎの銅メダリスト小池礼三らは、当時控室にあつた日本代表の看板に寄せ書きし、児島に贈った。

だが、待ち望んだ1940年東京五輪は、日中戦争によって大会を返上。代替として開催予定のヘルシンキ大会も第2次世界大戦で中止となった。

太平洋戦争開戦まで1年。幻の五輪イヤーとなつた40年、児島は毎日欠かさず、英語で日記をつけた。練習のラップタイムも記し、日本選手権で新記録を樹立。練習の合間に銀座で映画を見たり、ステーキを食べたりする学生らしさも垣間見える。

「伯父はベルリン大会後、イギリスやフランス、オランダ、エジプトを周遊し、一般の人より国際感覚を磨いていたと思う。いつか米国に渡り、キー

ファー選手とも泳ぎたい思いもあつて英語を学び続けたと思う」

日記や手紙など遺品を保管する、甥の正雄さん(58)はそう考える。

夢の続きを奪つたのは、戦争だった。41年に海軍経理学校に進み、44年春に沖繩海軍航空隊に主計大尉として配属された児島は、45年6月12日、沖繩で戦死した。

沖繩戦で生き残った玉井向一郎氏は著書『風に立つ』で、交流のあつた児島の言葉をこう記した。

「俺は泳いで与論島に行く。そのあと、島づたいに奄美大島まで行けばしめたものだ」

昨年7月、正雄さんは、平和祈念公園で伯父の名が刻まれた「平和の礎」を訪ねた。そして、沖繩本島北端の辺戸岬に立ち、与論島を臨んだ。

「泰彦の無念、そして、沖繩で失われた20万人の命の重みを体で感じた。それぞれの希望や可能性を奪う、戦争の残酷さを改めて思つたのです」

戦争とスポーツⅡ

# 「戦没オリンピック名簿」の今



曾根幹子

1945年8月6日、広島市上空で炸裂した原子爆弾により約35〜36万人が直接被爆し、死者は年末までに約14万人に上ったといわれる。その中に、オリンピックがいたのではないか。「広島市被爆70年史」（特論「スポーツ王国広島」）の執筆をきっかけに始めた調査は、思いがけない広がりがあった。

資料や文献等を渉猟する中で、以下4点のことがわかった。①82年にドイツ・ベルリンで「世界戦没オリンピック」の追悼が行われた際、日本人戦没オリンピックの名簿（30人）が届けられている。②その名簿作成の窓口は大島鎌吉（32年ロサンゼルス五輪、陸上三段跳3位、36年ベルリン五輪、6位）だっ

た。③ドイツの「世界戦没オリンピック」名簿には定義があり（「戦争や暴力によって亡くなったオリンピック」）、選手だけでなく役員も含まれていた。④それまでの日本人戦没オリンピック調査には、明確な定義がなされていなかった。

ベルリン・スポーツ博物館所蔵の、先の名簿を閲覧して驚いたのは、日本人戦没オリンピック名と人数が間違っており、大島が持参した名簿ではなかったことだ。<sup>\*1</sup>ドイツの定義を援用すれば、高田静雄（ベルリン五輪、陸上砲丸投）も名簿に加わる。高田は爆心地近くで被爆し、原爆症による闘病の末、63年12月に亡くなっている。

実は、大島は新たな戦没者が見つかった際、「他にも原爆で亡くなった五輪選手の情報があり、（略）追加選手として要請したい」（朝日新聞1984年8月11日付）とコメントしている。大島は自ら作成し持参した名簿から、高田が抜け落ちていたことをわかつていたと考えられる。戦後、大島は原水爆禁止運動に熱心に取り組み、82年の「反核三千万人署名運動」などにも参画している。親友だった高田が被爆の後遺症で苦しむ姿を目の当たりにし、「核兵器廃絶」がオリンピックの平和運動につながるという確信を、強く持っていたのではないだろうか。

### オリンピックの名簿——戦死と帰還

「日本人戦没オリンピック」名簿の完全版は年々難しくなっている。遺族や関係者の高齢化もある。2年前に公表した論文<sup>\*2</sup>にも間違いが見つかり、再調査しているオリンピックもある。「兵籍簿（軍歴証明書）」は必ずしも正確ではないが、戦死者が話せな

かった戦場を一枚の紙が語ることもある。

ベルリン五輪のチケットや現地で練習している写真が残っていたことから、調査をした自転車選手がいる（銀輪部隊に所属。ミヤンマーのペグー山系で戦死）。兵籍簿には「頭部貫通銃創」とあったが、その事実を遺族は兵籍簿を見るまで知らなかった。「終戦まであと2カ月生きていてくれたらと、母がいつも話していた」と一人息子が述懐している。

木谷徳雄（32年レークプラシッド冬季五輪、スピードスケート）や竹内悌三（ベルリン五輪、サッカー）は、シベリア抑留中に亡くなった。杉浦重雄（ベルリン五輪、競泳800mリレー優勝）は、旧ソ連と満州国境近くで捕虜となりシベリア抑留に。終戦後3年して帰還した。背中には銃弾をえぐり出した傷跡が2か所あり、壊血病で体はボロボロだった（長女談）。

「戦没オリンピック」という狭い枠での調査だったが、見えたことがあった。戦没時期は、1944（

45年の間に約6割弱。32年と36年の両五輪出場者が約9割を占めていた。40年東京五輪開催返上後（38年7月）からは、兵役免除延長中のオリンピックの応召が増えている。国家総動員法（38年4月）が公布され、兵役法の下、オリンピックたちも特別視されることなく召集されていった。

『忘れてはいけないことは 決して忘れてはいけない』

「8月6日」という高木いさおの詩がある。「（略）8月6日じゃなくても戦争の話が出てきたら『忘れてはいけない』と声に出そう（略）生きたいのに死んでいった沢山沢山の人たちのことを思いながら生きていくことの意味を考えよう」とある。戦没オリンピックの調査を通じて、先の詩を度々思い出した。

原爆で廃墟となった広島市に「かつて学校でスポーツをやった人たちが次々に復員してきた。会えばすぐにスポーツの話になった。暗い世相だからこ

そ、スポーツは必要だった」（金柊晴海『広島スポーツ100年』）。焦土と化した街が復興する時、人々の心の支えは、楽しかったスポーツの記憶や経験だった。

大島鎌吉はオリンピック平和賞を受賞した時、「世界の若者たちが交流し、友達になることの影響は計り知れない。戦争になっても友達は鉄砲でなんか撃てませんよ」（朝日新聞、1982年6月9日付）と話している。国やメダルの数、カネばかりを相手にしていたのでは、オリンピックの原点を見失う。スポーツには互いの顔が見える「交流」や「復興」がよく似合う。大島の言葉を今一度かみしめている。（敬称略）

\*1 曾根幹子・ト部匡司、「日本人戦没オリンピック名をめぐる混乱とその真相―ベルリンに届けられた大島鎌吉の作成名簿更新の試み―」広島国際研究第22巻、2016年で公表

\*2 曾根幹子「広島市公文書館紀要第32号、2019年（平成31年度）で38人の戦没オリンピックの詳細を公表

曾根幹子（そね・みきこ）広島県生まれ。東洋大学文学部国文学科卒業、安田女子大学大学院博士前期課程修了（文学修士。1976年モントリオール五輪陸上・走高跳出場。専門は「地域スポーツ論」「生涯スポーツ論」など。2014年からスポーツ史学会会員。広島市立大学名誉教授

# 戦禍に散ったオリンピック

協力：公益財団法人日本スポーツ協会

出典：広島市公文書館紀要第32号(2020年3月末現在)

曾根幹子「戦没オリンピック」をめぐる調査と課題 ― 広島県出身選手を事例に ―

※戦没時満年齢(数え年)・誕生日の日付が不明の場合は( )内に数え年のみ表記

※出身校(最終)

## アントワープ(1920年)



内田正練 47(48)

競技名:競泳自由形  
出身校:北海道大学  
戦没年:1945年

## パリ(1924年)



齊藤巍洋 40(42)

競技名:競泳背泳ぎ  
出身校:立教大学  
戦没年:1944年

## アムステルダム(1928年)



相沢巖夫 39(40)

競技名:陸上短距離  
出身校:京都大学  
戦没年:1945年

## ロサンゼルス(1932年)



阿武巖夫 29(31)

競技名:陸上短距離  
出身校:慶應義塾大学→中央大学  
戦没年:1939年



落合正義 29(30)

競技名:ハンマー投げ  
出身校:明治大学  
戦没年:1939年



齋藤盈夫 (30)

競技名:ボート  
出身校:早稲田大学  
戦没年:1939年



石田英勝 (37)

競技名:飛込  
出身校:慶應義塾大学(文化予科)→  
御国飛行学校・日本飛行学校高等科  
戦没年:1945年



河石達吾 33(35)

競技名:競泳自由形  
出身校:慶應義塾大学  
戦没年:1945年



柴田勝見 32(34)

競技名:ホッケー  
出身校:東京商科大学(一橋大)  
戦没年:1942年

ロサンゼルス(1932年)



武村寅雄 31(32)

競技名:競泳  
出身校:明治大学  
戦没年:1945年



中村英一 (37)

競技名:ホッケー  
出身校:慶應義塾大学  
戦没年:1945年



横山隆志 (33)

競技名:競泳自由形  
出身校:早稲田大学  
戦没年:1945年



土井修爾 28(30)

競技名:水球  
出身校:早稲田大学  
戦没年:1938年



村山又芳 (33)

競技名:ボート  
出身校:慶應義塾大学  
戦没年:1945年

ロス・ベルリン(1936年)



長尾三郎 32(34)

競技名:やり投げ  
出身校:関西大学  
戦没年:1943年



西竹一 42(44)

競技名:馬術  
出身校:陸軍騎兵学校  
戦没年:1945年

ベルリン(1936年)



新井(佐藤)茂雄 (29)

競技名:競泳自由形  
出身校:立教大学  
戦没年:1944年



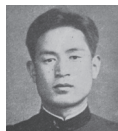
右近徳太郎 30(32)

競技名:サッカー  
出身校:慶應義塾大学  
戦没年:1944年



大沢(井川)政代 (34)

競技名:飛込  
出身校:九段精華高女  
戦没年:1946年



鈴木房重 30(32)

競技名:陸上道路競技  
出身校:日本大学  
戦没年:1945年



有本彦六 29(31)

競技名:体操  
出身校:日本体育会体操学校(日本体育大学)  
戦没年:1945年



大江季雄 27(28)

競技名:棒高跳び  
出身校:慶應義塾大学  
戦没年:1941年



児島泰彦 26(28)

競技名:競泳背泳ぎ  
出身校:慶應義塾大学  
戦没年:1945年



鈴木聞多 26(27)

競技名:陸上短距離  
出身校:慶應義塾大学  
戦没年:1939年

ベルリン(1936年)



高田静雄 54(55)

競技名:砲丸投げ  
出身校:旧制広陵中学中退  
戦没年:1963年



高橋豊二 24(26)

競技名:サッカー  
出身校:東京大学  
戦没年:1940年



田中一男 29(30)

競技名:競泳自由形  
出身校:早稲田大学  
戦没年:1944年



前田倍三 (28)

競技名:水球  
出身校:早稲田大学  
戦没年:1943年



満留勉 (32)

競技名:ボート  
出身校:早稲田大学  
戦没年:1945年



吉本善多 29(31)

競技名:セーリング  
出身校:同志社大学  
戦没年:1944年



脇坂貞夫 (30)

競技名:ホッケー  
出身校:東京商科大学(一橋大)  
戦没年:1945年



高野重幾 36(37)

競技名:陸上(役員)  
出身校:明治大学  
戦没年:1945年



竹内悌三 37(39)

競技名:サッカー  
出身校:東京大学  
戦没年:1946年



谷口睦生 30(31)

競技名:陸上短距離  
出身校:関西大学  
戦没年:1943年



松永行 28(30)

競技名:サッカー  
出身校:東京高等師範(筑波大学)  
戦没年:1943年



吉田喜一 (27)

競技名:競泳背泳ぎ  
出身校:早稲田大学  
戦没年:1944年



若山滝美 (28)

競技名:水球  
出身校:早稲田大学  
戦没年:1941年

レークプラシッド(冬季、1932年)



木谷徳雄 37(39)

競技名:スピードスケート  
出身校:満州国大和学校  
戦没年:1947年

# 今、語る被爆体験

張本勲

スポーツゴジラ20号（二〇一二年十一月三十日刊行）  
特集「戦争とスポーツ」の中で反響の大きかった  
張本勲氏インタビューを再録しました。

戦争  
と  
スポーツ

張本勲氏は、長い間ご自身の被爆体験を語ることはなかった。その彼が、出身地・広島のマツダスタジアムで初めての始球式を行った。

テレビで20歳前後の若者が「戦争なんか自分たちとは関係ない」「原爆がどこに落ちたかなんて知らない」と放言するのを聞いて、被爆体験を語れるのは自分達しかいないと、気づかされたという。

毎週日曜日の朝、TBS「サンデーモーニング」のスポーツコーナーで「喝だ、かーつつ！」と元気な声を響かせている張本勲さん。現役時代は「安打製造機」の異名を持ち、41歳で引退するまで日本プロ野球記録の通算3085本もヒットを打った。

その張本さんが広島出身であることを知っている人はどのくらいいるだろう？ 張本さんは2012年故郷広島で始球式を行なった。原爆慰霊の日である8月6日の前夜に、広島・マツダスタジアムで行なわれた阪神対広島試合。始球式で張本さんがボールを投げた時、打席に立っていたのは同年限りでの引退を表明していた金本知憲選手だった。

### 初の始球式

——プロ野球を引退して31年経ちました。なぜ、今、出身地である広島で初めて始球式をしたのでしょうか？

張本 数年前、テレビで、原爆がどこに落ちたかを

知らない若者がいることを知りました。1945年8月6日午前8時15分、広島に原爆が落ちたということを知らない若者が大勢いる。私は広島で生まれ育ち、広島人として誇りを持っています。それが、「私に関係ない。遠い昔のことだから」と言っているのを聞いて、これは大変な国になったと感じました。戦争で亡くなった人達は犠牲者じゃないからね。私達の身代わりですよ。一つ間違ったら私達が遭っていたかもしれないのです。忘れてはいけません。私ももう70歳を超えました。これまでは被爆のことをなかなか言えなかったが、依頼が来たらどんどんメッセージを出していこう、と考え始めました。

——原爆が投下された時はどこにいましたか？

張本 5歳だった私は、近所の友達と外で遊ぼうと、ちょうど家のドアを開けたところでした。ドアを開けた瞬間、ピカッと光ったかと思うとドーンという音とともに強い衝撃を受け、気を失いました。

## 明暗を分けた山

——ご家族はどうされていましたか？

張本 当時、広島の家には5人で住んでいました。母と15歳の兄、11歳と8歳の2人の姉、そして私です。父は韓国にいて戦況の悪化から広島に戻ってくる事ができずにいました。家は、比治山のふもとバラック建ての長屋です。ドーンという衝撃で、長屋は一瞬にしてなぎ倒されました。爆心地からわずか2キロです。後に、爆心地から500m以内にいた人はほぼ即死、一瞬にして約10万人の人が亡くなった、とわかりました。その日、兄は仕事で朝から出かけており、一番上の姉は小学校の勤務奉仕で比治山のでっぺんで作業をしていました。だから、そのとき家には、母と、すぐ上の姉と自分の3人だけがいました。

——被爆した時、周りはどのような様子でしたか？  
張本 気を失っていたのはほんの一瞬だったように

す。気がついたら母が私とすぐ上の姉を抱きかかえるように覆いかぶさっていました。そのお陰で自分は無傷でしたが、母の身体には無数のガラスの破片が刺さって血まみれになっていました。母は「ぶどう畑へ逃げろ！」すぐ上の姉と私に叫びました。母は「兄と一番上の姉が帰ってくるのを待っているからここに残る」と言うので、すぐ上の姉と2人でぶどう畑に走ってゆくと既に何人か避難してきた人達がいきました。

——当時まだ5歳でした。今でも忘れられない出来事がありますか？

張本 今でもはつきり覚えているのは、人肉の焼けただれた臭い、夜中の絶叫、気がふれているのでしようね、そして夜中に走り去る人、熱くて川に飛び込みに行くのでしょう、皆死んだと後から聞かされました。

——一番上のお姉さんはいつ戻ってきましたか？  
張本 黒髪で背の高い、自慢の姉でした。勤務奉仕

で比治山に薪狩りに行っていました。比治山は広島市の中心部にある標高70mの山ですが、私の家はその山陰にあったので、私たちは助かった。でも姉はそれとつぺんに行つて、ともに爆弾を受けた。2日くらい経つてから赤十字の人が担架で運んできてくれた。これが私の姉か……焼けただれて見る影もなかったです。微かに息をしている状態で、熱い、痛い痛いと言っていました。よくお袋は気がふれなかったと思います。溺愛する我が娘に、薬も氷もなす術なくじつと見守るしかなかった。2日後に亡くなりました。その後お袋は髪の毛一本も残さなかった。見ると思い出すからでしょう。私が小さな写真を持つていたら怒られた。以来、母に姉のことは一切聞けませんでした。

## 高校野球からプロへ

——その後、復興とともに広島島の街でどのように過ごしましたか？

張本 中学に入ったとき、最初は水泳部に入りたかったんですが入った中学にはなかった。兄に相談したら2番目に好きな野球をやつたらどうか、と言う。それで野球を始めました。やつてみたら、なんとかうまくいつて投手で4番でした。高校に入ったら甲子園に行きたい、と夢に思っていました。ところが、広島の高校はどこも入れてくれない。勉強はまあまあ。最初に広島商業を受けました。予備テスト、勉強は二重丸ですよ。入れた、と思いました。それが不合格。「横暴性があつて当校に向かない」と通知に書かれていた。次は広陵です。面接で「広島商業に行きたかったがダメだったのでここを受けに来た」と言つたら「そんな生徒はいらん」と怒られた。「おう、上等じゃわ」と先生を蹴飛ばした。それで市内中、噂になって他を受けられなかった。たまたま、市内の松本商業の野球部の監督が、中学時代の自分を見てくれていて、兄を通じて「うちの高校に入ってくれ」と引つ張ってくれた。ただし条件があ

った。「1学期だけは喧嘩せんでくれ」と。それで入学し、1学期は約束を守って大人しくしていました。しかし、松本商業は野球が弱く甲子園どころじやなかった。その頃、たまたま読んだ雑誌に平安浪商（浪華商業Ⅱ現・大体大浪商）と常に甲子園に出る高校のことが書かれていた。すぐさま兄に「行かせてくれ」と頼んだが「何をバカなことを。今の生活もギリギリなのにごこに下宿代などの余裕があるのか」と怒られました。しかし「行かせてくれ」と懇願する自分の熱意に負けた兄が松本商業の野球部監督に相談し「化けたら凄い選手になるから、絶対行かせてやりなさい」と助言された。もう一つ「広島にこのまま置いておいたら喧嘩ばかりしてロクなものにならんから」という理由もあったようです。タクシー運転手をしていた兄が仕送りをしてくれることになり、高校1年の2学期から浪商に転校しました。卒業時にプロから声がかかり、東映フライヤーズに入団しました。

### 核兵器の廃絶を唱える

——野球をしていても、被爆のことは不安だったのではないですか？

張本 そりや不安でした。プロ野球に入ってから1年に1回健康診断がありますから。ひよつとしたら原爆症が出るんじゃないかと。昔は差別があつて、被爆したとは言えなかったんですよ。被爆した、ケロイドがある、右手がない、など周りにはたくさんいました。それを、父兄が「ケロイドはうつるから」と。実際うつるなんて、そんなことはないんですよ。だけど、こういうことがあったので子どもの頃から「被爆のことは言わない方がいいんだな」と思っていました。

——被爆者手帳（被爆者健康手帳）をお持ちです。

張本 兄はすぐにもらいましたが、私は4、5年後です。ちよつと身体の調子が悪いと、ひよつとした

ら、と思ってしまう。未だに、この歳になつて後遺症が出る人がいます。広島に帰つて「あの人亡くなつた、原爆症だつた」と聞く。想像を絶しますよ、戦争は。その光景を見てきたからね。それが全体に広がつていくと、人類の破滅です。だから私達は核兵器の廃絶を唱えているんです。大国から捨ててほしいですね。オバマさんには広島、長崎に来て、原爆資料館を見てほしいです。自分に置き換えて考えるわが子、きょうだいだったらどうするか？ 核兵器廃絶の運動のためなら、ニューヨークに行つても構いません。

### 後悔はつきない

——野球をやる上で、心の支えになつたのはどういう思いでしたか？

張本 親父は戦後まもなく、私が6歳になる前に亡くなりました。それからお袋が必死に働いてくれま

した。言葉もわからない、字も読めない日本の地で頑張りました。お袋の寝た姿、見たことないんですよ。自分が朝起きたら既に朝ごはんの支度ができていて、その後お袋はヤミ市に買い出しに行き、ホルモン焼きの店を夜中までやつて昼も夜も働きづめでした。兄貴だつて、タクシーの運転手を続けて、私に仕送りするために睡眠時間を削つて働いてくれた。何とか楽させてやりたい、つて思うでしょう？ 何とか楽させてあげたい、美味しいものを食べさせてあげたい、トタン屋根のバラックから助け出してあげたい、そのために野球を頑張ろう、と思ひました。

——大変な思いを何度もしたでしょうが、プロ野球選手として偉大な結果を残しました。「野球をできる喜び」はありましたか？

張本 それは一瞬のこと。日本一になつた、日本記録を作つた、と喜んでそれは一瞬。翌日からまた叩き合いが始まるからホッとする暇がない。引退した時はもうバッテリーボックスに立たなくてもいいん

だ、と思うとホッとしました。でもね、引退して30年経つても後悔はあるよ。あの時、誘惑に負けて飲みに行かずにもっとバットを振って練習していたら、もっともつといい成績を残せたのに。数字、安打、ホームラン、もっと打てたのではないか、と今も後悔しています。

### 隠し通した右手

——来世も野球選手がいいですか？

張本 絶対いやです。なぜなら右手が不自由だから。5歳になる前の冬に焚き火の中に落ちてしまい、それ以来右手の指がくっついて曲がったままです。5本の満足な指をくれるというなら、もう一度野球をやってもいい。

——右手の大火傷のことを知らない人は、今も多いのではないのでしょうか。

張本 右手のことは、隠し通しました。新人王を取って広島に帰って家族で食事している時に「もう少

しこの右手が良かったらもつといい成績を残したんだが」と言ったらお袋がわあーつと泣き出した。自分を責めたんだね、それで、もう二度と言ってはいけない、と思いました。外で遊んでたのは子どもだった自分だから、火傷はお袋には関係ないんですけどね。その火傷の後に、右利きだったのを左利きに変えました。松本商業の監督は右手のことは全く知らなかったが、私の中学時代の打つ、投げる、走る、を見て、高く評価して引つ張ってくれた。そこから

浪商、プロ野球へ

と繋がっていった。

プロの世界では、

人を頼ってはいけ

ないから誰にも言

わなかったから、

誰も知らなかった。

引退後に川上哲治

さんと一緒になっ



た時に「こんな右手で頑張りました」と初めて手を見せたら「ええっ、お前、よくこの右手で」と涙ぐんでくれました。やつぱりわかってくれる人はわかってくれるんだ、とホッとしました。川上さんに書いてもらった色紙の「一打一生」と「これほどの努力を人は運という」、この言葉は生涯の宝です。

## 平和への感謝を

——今の若い選手をどう見ますか？

張本 今の子は逆に不幸ですね。全て満たされているからね。目標があつて上手くなりたい、いい給料がもらいたい、という選手は努力するでしょう。スポーツ選手は、常に上へ上へ、一番を目指して行かないとダメですよ。今は、褒めてやらないと選手は動かない。指導者は常に目標を与えて口酸っぱく指導していかないと、スポーツが成り立たなくなつてきています。

——平和とスポーツ、若い人たちに何か伝えたいこ

とはありますか？

張本 争い事はやめてもらいたい。「平和だからこんなにスポーツができるんだ」というありがたみを感じてほしい。スポーツ選手として備わった身体があつて才能がある人は、今の平和の中で自分の能力を発揮することに感謝の気持ちを持つてほしいと思います。

(構成＝西本祥子)

はりもと・いさお 1940年6月広島市生まれ。5歳の時に被爆。中学時代に野球を始める。地元の松本商業高校を経て大阪・浪商高校に入学し、野球を続けた。59年プロ野球・東映フライヤーズに入団。1年目から1軍の試合に出場。115安打、13本塁打を放ち新人王となる。76年に巨人に移籍し、王選手と組んだOH砲で優勝に貢献した。80年にロッテに移籍し、81年に41歳で引退。90年に野球殿堂入り。

通算3085安打。504本塁打。319盗塁。首位打者7回、最多安打3回。その他、打率2位が5回、打率3割超が16回等。MVP1回(62年)。ベストナイン16回。オールスターMVP3回等。

# 戦争とスポーツ年表

| 開戦年  | 終戦年  | 戦争名           | スポーツ界の出来事 |                        |
|------|------|---------------|-----------|------------------------|
| 1894 | 1895 | 日清戦争          | 1896      | 第1回近代オリンピック、アテネで開催     |
| 1896 | 1896 | イギリス・ザンジバル戦争  | 1900      | パリ・ヘリオン間で最初の国際自動車レース   |
| 1898 | 1898 | 米西戦争          | 1902      | 藤井実、100m10秒24の世界新記録    |
| 1899 | 1913 | 米比戦争          | 1903      | 米大リーグ、第1回ワールドシリーズ      |
| 1899 | 1899 | 第2次ボア戦争       | 1904      | 国際サッカー連盟(FIFA)発足       |
| 1900 | 1901 | 義和団事件         | 1909      | 嘉納治五郎、日本人初のIOC委員就任     |
| 1904 | 1905 | 日露戦争          | 1912      | ストックホルム五輪。日本が初参加       |
| 1911 | 1912 | 伊土戦争          |           | 第1回東洋五輪大会、マニラで開催       |
| 1912 | 1913 | 第1次、第2次バルカン戦争 | 1915      | 第1次大戦のためベルリン五輪中止決定     |
| 1914 | 1918 | 第1次世界大戦       | 1920      | アントワープ五輪。熊谷が日本人初メダル    |
| 1917 | 1922 | ロシア内戦(ロシア革命)  | 1924      | 第1回冬季五輪シャモニー大会開催       |
| 1918 | 1919 | ハンガリー・ルーマニア戦争 | 1926      | 第2回世界女子五輪で人見絹枝が優勝      |
| 1919 | 1922 | アイルランド独立戦争    | 1927      | ペープ・ルースがシーズン60本塁打      |
| 1919 | 1921 | ポーランド・ソビエト戦争  | 1928      | アムステルダム五輪。織田幹雄が金メダル    |
| 1919 | 1919 | アフガニスタン独立戦争   | 1930      | 第1回サッカーW杯、ウルグアイで開催     |
| 1919 | 1922 | 希土戦争(小アジア戦争)  | 1931      | ゲーリッグら大リーグ選抜来日         |
| 1922 | 1923 | アイルランド内戦      | 1934      | 大日本東京野球倶楽部(現・巨人)創立     |
| 1927 | 1949 | 国共内戦          | 1936      | ベルリン五輪。聖火リレーを導入        |
| 1931 | 1932 | 満州事変          |           | IOC総会で次の五輪開催地を東京に決定    |
| 1932 | 1938 | チャコ戦争         | 1938      | 日中戦争拡大で東京五輪開催返上を決定     |
| 1935 | 1936 | 第2次エチオピア戦争    | 1939      | 双葉山、安藝ノ海に敗れ69連勝でストップ   |
| 1936 | 1939 | スペイン内戦        | 1940      | 東京五輪の代替都市ヘルシンキも中止      |
| 1937 | 1945 | 日中戦争(支那事変)    | 1941      | ジョー・ディマジオ、56試合連続安打     |
| 1938 | 1938 | 張鼓峰事件         | 1943      | 敵性語禁止で野球用語全面日本語化       |
| 1939 | 1939 | ノモンハン事件       | 1944      | ロンドン五輪中止               |
| 1939 | 1945 | 第2次世界大戦       | 1945      | 米大リーグ、オールスターゲーム中止      |
| 1945 | 1949 | インドネシア独立戦争    | 1947      | ジャッキー・ロビンソン、黒人初の大リーガーに |
| 1945 | 1954 | 第1次インドシナ戦争    |           | 古橋廣之進、400m自由形世界新記録     |
| 1946 | 1949 | ギリシャ内戦        | 1948      | ロンドン五輪、日本、ドイツは招待されず    |
| 1948 | 1949 | 第1次中東戦争       |           | 第1回ストークマンデビル競技会開催      |
| 1950 | 1953 | 朝鮮戦争          | 1951      | 第1回アジア大会、ニューデリーで開催     |

| 開戦年  | 終戦年  | 戦争名         | スポーツ界の出来事 |                        |
|------|------|-------------|-----------|------------------------|
| 1950 | 1951 | チベット侵攻      | 1951      | 田中茂樹、第55回ボストンマラソン優勝    |
| 1954 | 1962 | アルジェリア独立戦争  | 1952      | 白井義男、世界フライ級チャンピオンに     |
| 1956 | 1956 | ハンガリー動乱     |           | ヘルシンキ五輪。レスリング石井庄八、金    |
| 1956 | 1957 | スエズ動乱       | 1954      | 力道山・木村政彦がシャープ兄弟と対戦     |
| 1959 | 1959 | チベット動乱      |           | ディマジオ、モンロー夫妻が来日        |
| 1960 | 1996 | グアテマラ内戦     | 1956      | メルボルン五輪、数カ国がボイコット      |
| 1960 | 1975 | ベトナム戦争      | 1958      | ペレの活躍でブラジルがサッカーW杯優勝    |
| 1961 | 1961 | キューバ危機      | 1959      | 天覧試合で長嶋茂雄がサヨナラ本塁打      |
| 1962 | 1962 | 中印国境戦争      | 1961      | マン島の二輪レースで本田技研チームが優勝   |
| 1967 | 1967 | 第3次中東戦争     | 1962      | 堀江謙一、小型ヨットで単独太平洋横断     |
| 1967 | 1970 | ビアフラ戦争      | 1964      | 村上雅則、大リーグSFジャイアンツ入団    |
| 1968 | 1968 | プラハの春       |           | アジア初のオリンピック、東京五輪開催     |
| 1969 | 1969 | 中ソ国境紛争      | 1965      | ファイティング原田、2階級制覇        |
| 1969 | 1969 | サッカー戦争      | 1967      | 高見山大五郎、外国人初に関取に        |
| 1969 | 1998 | 北アイルランド紛争   |           | ムハマド・アリ、宗教上の信念で徴兵拒否    |
| 1970 | 1970 | ヨルダン内戦      | 1968      | ザトベック、チャスラフスカ「二千語宣言」署名 |
| 1970 | 1993 | カンボジア内戦     |           | 南ア不参加でメキシコ五輪ボイコット回避    |
| 1973 | 1973 | 第4次中東戦争     | 1970      | 植村直己、世界初の5大陸最高峰登頂      |
| 1974 | 1974 | キプロス紛争      | 1971      | 世界卓球名古屋大会でピンポン外交       |
| 1975 | 1990 | レバノン内戦      | 1972      | 札幌冬季五輪、プロ・アマ問題に揺れる     |
| 1975 | 2002 | アンゴラ内戦      |           | ミュンヘン五輪。パレスチナゲリラのテロ    |
| 1977 | 1988 | オガデン戦争      | 1975      | 沢松和子、ウィンブルドン女子ダブルス優勝   |
| 1979 | 1979 | 中越戦争        | 1976      | ムハマド・アリ対アントニオ猪木戦       |
| 1979 | 1989 | コントラ戦争      | 1977      | 王貞治、アーロンの記録破る756本塁打    |
| 1979 | 1989 | ソ連のアフガン侵攻   | 1980      | モスクワ五輪。米国、日本などがボイコット   |
| 1980 | 1988 | イラン・イラク戦争   | 1981      | 第1回トヨタカップ(現FIFAクラブW杯)  |
| 1982 | 1982 | フォークランド紛争   | 1983      | 第1回世界陸上。カール・ルイス3冠      |
| 1983 | 2005 | 第2次スーダン内戦   |           | アメリカ杯24連勝中の米が豪に敗れる     |
| 1983 | 1983 | グレナダ侵攻      | 1984      | サラエボで社会主義国初の冬季五輪       |
| 1983 | 2009 | スリランカ内戦     |           | ロス五輪。ソ連、東独などがボイコット     |
| 1984 | 1984 | 中越国境紛争      | 1985      | フリーガン暴動激化。ヘイズルの悲劇      |
| 1986 | 1987 | トヨタ戦争       | 1986      | サッカーW杯。マラドーナのアルゼンチン優勝  |
| 1988 |      | ソマリア内戦      | 1987      | 中島悟、F1フル参戦。鈴鹿で日本GP開催   |
| 1988 | 1994 | ナゴルノ・カラバフ戦争 |           | 第1回ラグビーW杯。ニュージーランド優勝   |
| 1989 | 2001 | アフガニスタン内戦   |           | 岡本綾子、全米女子プロゴルフ賞金女王     |

## 戦争とスポーツ年表

| 開戦年  | 終戦年  | 戦争名            | スポーツ界の出来事 |                          |
|------|------|----------------|-----------|--------------------------|
| 1989 | 1992 | 第1次南オセチア紛争     | 1988      | ソウル五輪。159カ国が参加           |
| 1989 | 1989 | パナマ侵攻          | 1989      | JOC、日本体育協会から独立し財団法人に     |
| 1989 | 1989 | 第1次リベリア内戦      | 1990      | マクシミルススタジアムの暴動           |
| 1990 | 1991 | 湾岸戦争           | 1991      | IOCがプロ選手の五輪参加認める         |
| 1990 | 1994 | ルワンダ内戦         | 1992      | ユーゴスラビア代表、欧州選手権出場停止に     |
| 1991 | 2001 | シエラレオネ内戦       | 1993      | Jリーグ開幕／ドーハの悲劇            |
| 1991 | 2000 | ユーゴスラビア紛争      | 1995      | 野茂英雄、ロサンゼルス・ドジャースに入団     |
| 1994 | 1994 | 第1次イエメン内戦      |           | ラグビーW杯、開催国・南アフリカが優勝      |
| 1994 | 1996 | 第1次チェチェン紛争     | 1996      | アトランタ五輪。爆弾テロで2名が死亡       |
| 1998 | 1998 | 東ティモール紛争       | 1998      | 長野冬季五輪。日本、金メダル5個獲得       |
| 1999 | 2009 | 第2次チェチェン紛争     |           | サッカーW杯フランス大会。日本代表初出場     |
| 1999 | 2003 | 第2次リベリア内戦      | 2001      | 同時多発テロでスポーツイベント中止相次ぐ     |
| 2001 | 2021 | アメリカのアフガニスタン侵攻 | 2002      | サッカーW杯を日本・韓国が共催          |
| 2003 | 2011 | イラク戦争          | 2004      | イチロー、大リーグ記録の262安打        |
| 2004 |      | ガルフール紛争        | 2006      | 第1回WBC。日本代表優勝            |
| 2004 |      | ウジリスタン紛争       | 2008      | スピルバーク監督、北京五輪芸術顧問を辞任     |
| 2006 | 2006 | イスラエルのガザ侵攻     |           | 北京五輪聖火リレー各地で妨害される        |
| 2006 | 2006 | イスラエルのレバノン侵攻   | 2009      | 松井秀喜（ヤンキース）、WシリーズMVP     |
| 2008 | 2008 | 第2次南オセチア紛争     | 2011      | なでしこジャパン、女子サッカーW杯優勝      |
| 2008 | 2009 | ガザ紛争           | 2013      | 田中将大投手24勝の活躍で楽天初優勝       |
| 2010 | 2012 | アラブの春          | 2015      | スポーツ庁発足。初代長官に鈴木大地氏       |
| 2011 | 2011 | 第1次リビア内戦       |           | FIFA汚職事件発覚。ブラッター会長辞任     |
| 2011 |      | シリア内戦          |           | ラグビーW杯で日本代表が南アを破る        |
| 2011 |      | シナイ紛争          | 2016      | リオ五輪。男子体操金、内村個人総合2連覇     |
| 2012 |      | マリ北部紛争         | 2017      | 桐生祥秀が日本人初の100m9秒台を記録     |
| 2013 |      | ラハダトゥ侵攻        | 2018      | 平昌冬季五輪。羽生結弦が2連覇達成        |
| 2014 |      | イラク内戦          |           | 大坂なおみ、全米でグランドスラム初優勝      |
| 2014 | 2014 | ロシアのクリミア併合     | 2019      | 渋谷日向子、全英女子でメジャー大会初優勝     |
| 2014 | 2020 | 第2次リビア内戦       |           | ラグビーW杯日本開催。日本代表ベスト8進出    |
| 2015 |      | 第2次イエメン内戦      | 2020      | Covid-19感染拡大で東京オリ／パラ開催延期 |
| 2017 | 2017 | マラウィの戦い        | 2021      | 松山英樹マスターズでメジャー大会初優勝      |
| 2020 | 2020 | ナゴルノ・カラバフ紛争    |           | 東京オリンピック、パラリンピック開催       |
| 2021 |      | パングジール紛争       |           | 大谷翔平、二刀流でア・リーグMVP        |
| 2022 |      | ロシアのウクライナ侵攻    |           | 北京冬季パラからロシア、ベラルーシを排除     |

# ワールドゲームズって何?!

師岡文男  
構成 末村元彦



本稿は2022年4月30日に行なわれた日本スポーツ学会「スターセミナー・10回」をもとに構成されました。

**師岡 文男** (もろおか・ふみお) 1954(昭29)年東京都生まれ。上智大学名誉教授、スポーツ庁参与。ラグビーワールドカップ2019組織委員会顧問。東京2020機運醸成意見交換会委員。ワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会委員・参与。JOC総務委員。日本ワールドゲームズ協会執行理事。GAISF国際スポーツ団体連合元理事。IWGA国際ワールドゲームズ協会元理事、日本フライングディスク協会会長

——昨年、東京五輪が行われ、今年の7月にはワールドゲームズが開催されます。日本ワールドゲームズ協会執行理事の師岡文男先生にあらためてお話をいただきます。まずはこの大会についてご説明下さい。

**師岡** ひとことで言うと、ワールドゲームズはオリンピック競技大会に採用されていない種目の国際総合競技大会です。しかし、オリンピックと対立している関係ではなく、IOC（国際オリンピック委員会）が後援しています。東京2020オリンピック競技大会から追加競技が加わりましたが、それらは全て国際ワールドゲームズ協会（IWGA）加盟競技から選ばれています。

私がワールドゲームズに興味を持ったのは、1979年に上智大学で当時必修だった一般体育実技としてバレーボールを教え始めた際、小中高でバレーボールが嫌いになってしまった学生が多数いたので、気分転換にニュースポーツとしてフライングディスク（アルティメット）を紹介したら、学生達

が夢中になってプレーしたのです。その様子を見たことがきっかけです。その時、スポーツの選択肢を音楽の様に多様化させればスポーツ嫌いは減ることを確信しました。ですから、その翌年から学生がとでも楽しそうにプレーするフライングディスクを正式に体育実技の種目として採用しました。ニュースポーツのことを調べていくと、1981年から非オリンピック種目の国際総合競技大会「ワールドゲームズ」というものが開催されるようになったことを知り、1993年にオランダで開催された第4回大会は自費で視察し、その後は役員として毎回参加してきました。

### 伝説の秋田大会

——日本への招致にも尽力されたわけですね。

**師岡** はい。日本で開催できたら日本人のスポーツに対する意識が変わり、スポーツの選択肢が飛躍的に拡大することを期待して招致活動を行いました。

当初知名度が低いことで苦勞しましたが、2001年に秋田県で第6回大会を開催することが決まり、アジアで初めての大会をNHK教育テレビが開会式と閉会式を、BSでハイライトを毎日1時間全国放送してくれました。新聞各紙も一面で取り上げ、私自身も朝日と毎日が全国紙の「ひと」の欄で紹介されました。毎日新聞の見出しが、「五輪と国体だけがスポーツではない」で、大変嬉しかったことを覚えています。その秋田大会招致がきっかけとなり、

I W G A（国際ワールドゲームズ協会）の日本人初の理事となり、日本ワールドゲームズ協会執行理事の任務は今日に至るまで長年務めさせていただいています。

—— コロナ禍で一年延期になったワールドゲームズ第11回大会がようやく開催されますね。

**師岡** 今年7月7日から17日まで、アメリカのアラバマ州バーミングハムで、I W G A主催、I O C後援での開催となります。I O Cはドーピング検査の

費用を負担し、大会運営の技術的支援を行い、インターネット放送オリンピックチャンネルで大会の様を配信します。そして、開会式でI O C会長が挨拶しスタッフが各競技を視察します。2028年ロサンゼルスオリンピックの追加競技を決定するI O C総会を来年に控え、今回の視察は重要なものとなります。そういう視点でも注目されている大会です。

### アフガニスタンやウクライナも

—— いくつの競技が参加するのでしょうか。また日本からは、どれだけの数の競技に何人位の選手が出場するのでしょうか。

**師岡** 参加国数は5大陸110カ国で過去最多です。110番目に登録した国は2名の女子選手を含むアフガニスタンでした。ウクライナからは140名の選手が参加します。日本からは、今のところ20競技に136名の選手が参加し、アジア最多の予定です。I W G Aに加盟している国際競技団体は、現在39団

体になりましたが、今回公式競技に採用されたのは30競技です。その中には、オリンピック競技種目には入っていない種目、例えばアーチェリー自体はオリンピック競技ですが、野山を駆け巡ってのを撃つ「フィールドアーチェリー」は、ワールドゲームズ種目となります。競技の中に種目があるので、その種目を分ける意識を持ってもらおうとワールドゲームズに親しみがわくと思います。その他に開催地が推薦して選ばれた公開競技が5競技。この中には車いすラグビーが入りました。今までパラスポーツは入っていなかったのですが、私がIWGA理事を務めていた時に提案していたことがようやく叶ったといえます。ですが、今後はパラリンピックで採用されていないパラスポーツ競技が選ばれるべきだと私は思います。

また、今回エアスポーツ種目としてドローンが初めて採用され、日本選手1名が出場する予定です。スポーツクライミングは2024年パリオリン

ピックから公式競技になるため、今回が最後のワールドゲームズ公式競技となります。パリ五輪はオリンピックはパラリンピックとして有名になってきましたが、健全者競技でもあり、1981年の第1回大

公式競技(30競技)※カッコ内がワールドゲームズ種目

|            |                                                          |               |
|------------|----------------------------------------------------------|---------------|
| エアスポーツ     | アーチェリー(フィールド)                                            | ペリヤード         |
| ブルスポーツ     | ボウリング                                                    | カヌー(ボロ・マラソン)  |
| ダンススポーツ    | フィストボール                                                  | フロアボール        |
| フライングディスク  | 体操(アクロバット体操・バット体操・エアロビック・パルクール・新体操種目別・トランポリンシンクロ・タンブリング) | ハンドボール(ビーチ)   |
| 柔術         | 空手                                                       | キックボクシング      |
| コーフボール     | ラクロス(女子)                                                 | ライフセービング      |
| ムエタイ       | オリエンテーリング                                                | パワーリフティング     |
| ラケットボール    | ローラースポーツ                                                 | ソフトボール        |
| スポーツクライミング | スカッシュ                                                    | 相撲            |
| 綱引         | 水中スポーツ                                                   | 水上スキー・ウェイクボード |

公開競技(5競技)

|                         |                 |          |
|-------------------------|-----------------|----------|
| アメリカンフットボール(フラッグフットボール) | トライアスロン(デュアスロン) | ラクロス(男子) |
| 車いすラグビー                 | 武術              |          |

会からワールドゲームズ公式競技です。3名の日本選手が出場する予定です。それからアメリカならではの公開競技として採用されたアメリカカンフットボール競技種目フラッグフットボールの女子部門にも日本代表チーム12名が参加する予定です。

### 注目の競技や話題の種目

——ソフトボールがオリンピックから外されてワールドゲームズに戻って来ましたね。

**師岡** ソフトボールは、第1回・第2回ワールドゲームズ公式競技だったのですが、その後オリンピック競技となりました。しかし、次回パリ大会から除外されたので今年のワールドゲームズ第11回大会に公式競技として復帰します。実は今回、ソフトボールはアメリカで大変注目されているんです。と言うのは、東京オリンピックでアメリカは日本に敗れ銀メダルだったので、全米からベストメンバーを集めてリベンジマッチをこのワールドゲームズでやると

盛り上がっているそうです。もう一つアメリカで話題になっているのは、アメリカンフットボール競技種目フラッグフットボールです。フラッグフットボールは、タックルの代わりに選手の両腰につけたフラッグを取ることで、身体接触がなく女子部門があり、NFL（全米プロアメリカンフットボールリーグ）が後援し、大スタジアムで開催、NFLネットワークで配信される予定です。

——ワールドゲームズの歴史についても少しおさらいをして頂きましょうか。本来オリンピックがやらなければならぬミッションを実践していることが興味深いので、それについてもご教授下さい。

**師岡** ワールドゲームズは、1980年5月21日に国際テコンドー連盟金雲龍会長が韓国ソウルに非オリンピック競技12団体を集めてワールドゲームズ協議会（WGC、現在のIWGAの前身）を設立し、翌年1981年に第1回大会をアメリカのサンタク

ララで開催したことが始まりです。9カ国から1236名の選手が参加し、バドミントン、野球、ソフトボールを含む15競技が行われましたが、第2回ロンドン大会には57カ国が参加するようになりました。第3回西ドイツ カールスルエ大会の模様は、日本体育協会（現日本スポーツ協会）の機関誌の巻頭グラビアページにフォート・キシモトの岸本健氏撮影の多数の写真と共に紹介されました。

ワールドゲームズは、スタートするにあたり、ソ連のアフガニスタン侵攻に抗議する西側諸国の1980年モスクワ・オリンピックボイコットなど国際政治に翻弄されるオリンピックの姿を見て、開会式での国別選手入場をやめて競技別選手入場とし、表彰式での国旗掲揚・国歌演奏を行わないなど国際競技大会のあり方に一石を投じました。勝利至上主義で、国威発揚のために国のメダル獲得数を競うことが過熱していたオリンピックの改善策の実験でもありました。ワールドゲームズは国別対抗戦で

はないということを示したわけです。しかし、表彰式での国旗掲揚・国歌演奏なしは、観客には不評で復活し、開会式での競技別選手入場も2001年の第6回秋田大会までとなつてしまいました。これには、2000年と2016年にIWGAとIOCが覚書を締結し、IOCが「ドーピング検査費用を負担」、「各国オリンピック委員会へのワールドゲームズ参加選手への支援要請」、「知識・技術面での支援・援助提供」を行うようになったことと、2014年にIOC総会で採択された「オリンピックアジェンダ2020」の提言6-1で「IOCとIWGAはスポーツプログラムの構成及びそれぞれの評価に関して緊密に協力する」が影響しているかもしれません。

### 地方都市で開催できる大会

——オリンピックはお金がかかり過ぎるという大きな批判があります。これだけ大きな予算が必要で

あれば、アフリカなどでは永久に開催できないのではないかという批判が起きています。それに対してワールドゲームズには独特のポリシーがあるのでしたね。

**師岡** これはずっと第1回大会から、継続していることなのですが、ワールドゲームズの開催を引き受けてもらうための条件として、「開催地は新たな施設を造る必要はなく、既存のスポーツ施設で開催できない競技は開催しなくて良い」ことになっています。

新しい施設を造るためには多額の費用が必要になります。それを経済効果と呼ぶ場合もありますが、巨額の投資を受けられない国や地方都市ではとても開催できないわけです。オリンピックが未だにアフリカでは開催できず、アジアでも日本、韓国、中国でしかオリンピック・パラリンピックを開催できていないのは、そこに大きな原因があると思われるます。ワールドゲームズはそれを解消しました。因み

に2001年に93カ国から2193名の選手が参加し、27競技を実施した秋田大会での開催費用は22億円で、オリンピック・パラリンピックとは桁違いの低費用でした。

選手村も造る必要はなく、既存の宿泊施設に国別ではなく競技別に選手・役員を泊めるのです。国別に泊めると、他の国の選手との交流が進まないからです。競技別に各国の参加選手が同じ宿泊施設に泊まると、自然に交流が広がっていくのです。

開会式での競技別入場行進や表彰式で行わなかった国旗掲揚・国歌演奏ですが、大会が大きくなり、IOCが後援し、テレビ放送やメディアに取り上げられることが増えてからは、やはり国旗が見えないと盛り上がらない、応援するにもどの選手か判別しにくいということで復活しましたが、既存のスポーツ施設だけで開催し開催費用の軽減するポリシーは現在も守られています。年々開催経費が高騰し、大都市しか開催地として立候補できなくなつて

いるオリンピック・パラリンピックも、2021年IOC総会で採択された「オリンピックアジェンダ2020+5」で「新設会場は必要としない」方針がようやく打ち出されました。

### スポーツが政治を乗り越える知恵

——新たな施設をつくることでゼネコンなどの利権の構造に組み込まれたり、環境問題を起こしたりすることが問題視されていますが、そういったことが無いということが、前提なわけですね。開催する上で国際政治における国と言う枠組みにおいてもワールドゲームズは先鋭的な取り組みをしていますね。台湾という名称は東京五輪2020では公式に使われましたが、それよりも前にワールドゲームズは、スポーツとして政治を乗り越えるアプローチをしていましたね。

**師岡** 2009年の第8回大会は台湾の高雄で開催されました。これには皆驚きました。国際的なイベ

ントを台湾で開催することには、大抵中国が反対します。台湾を一つの国（中華民国）と認めることにつながるからです。オリンピックでは、台湾を「チャイニーズタイペイ」と呼び、地域としての参加を認めています。しかし、オリンピックを台湾で開催することには中国が猛烈に反対することは間違いないでしょう。しかし、2008年の北京夏季オリンピックの翌年に高雄でワールドゲームズを開催することは、2年続けてIOCが関係する国際総合競技大会が中国文化圏で開催されることになり国際スポーツ界における中国人の存在感をアピールできると考えたのか、中国は高雄でのワールドゲームズ開催を表立って反対しませんでした。しかし、開会式に中国選手団はフライトが遅れたことを理由に出席せず、閉会式はフライトの都合でと言って参加せずに出席しました。これは、中国選手団が、中華民国總統（国家元首）の前を行進することを回避したと思われまます。IOCもジャック・ロゲ会長ではなく猪

谷千春副会長を派遣し、中国に配慮しようです。中国選手は競技には参加しており、モスクワやロサンゼルスオリンピックのようなボイコットは避けられました。

しかしながら、今回のロシアのウクライナ侵攻に関しては、IOCからの要請もあり、IWGAはロシアとベラルーシの参加を禁止しました。これはワールドゲームズ始まって以来のことです。

——以前の取材の中でも感じましたが、一貫していすごく素晴らしいと思うのが、変なヒエラルキーに収められずにあらゆる競技種目に対する価値が均等に入っていること。政治や経済に翻弄されずにあらゆる都市が開催に手を挙げることができるといことは大いに評価できますね。

一方で、これは当時から懸念なのですが、ワールドゲームズが単にオリンピックの予備軍、2軍になってしまつては本当につまらないと思います、その点はいかがでしょうか。各競技団体はオリンピック

ク公式種目になるただけにプレゼンテーションでワールドゲームズに参加するならば、もったいないし、淋しいことだと思うのですが。

**それぞれの良さを見つめて活かす**

**師岡** 私も、ワールドゲームズがオリンピック・パラリンピックと違う点をもう一度明確にして打ち出すべきだなと思います。しかし、一方でワールドゲームズ競技がオリンピック追加競技に選ばれ、今回スケートボード（ローラースポーツ競技）、スポーツクライミング、サーフィンがオリンピック公式競技に採用されていくような好循環が促進されること、国際スポーツの発展、オリンピックの改革にとっても極めて有効です。オリンピック競技種目と非オリンピック競技種目の大会がそれぞれの特徴を活かして2年続けて開催されることは、国際スポーツの健全な発展のために改めて注目すべきと思います。ワールドゲームズは、独自の理念・運営方法を守り

ながらもメディアとしてのインターネットを活用することで、国際スポーツ界全体を変えていく流れのひとつになることも夢ではないと信じています。

——実際にオリンピックを目指さないとということ  
を公言している国際競技団体は存在するのでしょうか。

**師岡** IWGA加盟IF（国際競技団体）は、私の知る限りは、一般市民やスポンサーの認知を飛躍的に高めることにつながるオリンピック公式競技に採用されることを望まない訳はないと思います。私が知る限りでは、国際剣道連盟は、日本の武道の精神を純粹に守っていくために、GAISF（国際スポーツ団体連合）には加盟しても、オリンピック競技にも、ワールドゲームズ競技にもなることは望まないと役員の方から伺ったことがあります。

——さきほどのワールドゲームズがオリンピックに飲み込まれるのではなく、共存していく中で、むしろオリンピックが抱えている問題の改革に寄与して

いけるのではないかとの言葉は非常に頼もしいです。

今年のバーミングハム大会の成功を祈念すると同時に、もっと注目を集めるように応援していきたいと思っています。本日はありがとうございました。

## ワールドゲームズ大会の歴史

|      | 開催年   | 開催国            | 競技数(公式・公開) | 参加選手数(国・地域数) |
|------|-------|----------------|------------|--------------|
| 第1回  | 1981  | サンタクララ(アメリカ)   | 15(15・0)   | 1,265人(9)    |
| 第2回  | 1985  | ロンドン(イギリス)     | 20(20・0)   | 1,550人(57)   |
| 第3回  | 1989  | カールスルーエ(旧西ドイツ) | 20(17・3)   | 1,965人(49)   |
| 第4回  | 1994  | ハーグ(オランダ)      | 25(21・4)   | 2,275人(49)   |
| 第5回  | 1997  | ラハティ(フィンランド)   | 28(23・5)   | 1,725人(75)   |
| 第6回  | 2001  | 秋田(日本)         | 27(22・5)   | 2,193人(93)   |
| 第7回  | 2005  | デュイスブルグ(ドイツ)   | 32(26・6)   | 3,205人(93)   |
| 第8回  | 2009  | 高雄(チャイニーズタイペイ) | 31(26・5)   | 2,908人(84)   |
| 第9回  | 2013  | カリ(コロンビア)      | 30(26・4)   | 2,929人(98)   |
| 第10回 | 2017  | ヴロツワフ(ポーランド)   | 31(27・4)   | 3,214人(102)  |
| 第11回 | 2022* | バーミングハム(アメリカ)  | 110(予定)    | 未定           |
| 第12回 | 2025  | 成都(中国)         | 未定         | 未定           |

\* 2020年東京オリンピック・パラリンピックの1年延期により、第11回大会も1年延期での開催

## 『走』第2回



未来の「走り方」は過去のなかにある!?

玉木正之

江戸時代までの日本人は、走らなかつた——と書くと、誰もがウソだと思うだろう。飛脚は走つたし、武士も忍者も農民も町人も走つたはずだ。が、彼ら（我々の先祖）の「走り」は、今日の我々の「走り」とはまったく違つていた。

飛脚は片手か両手で肩に担いだ文箱の棒を押さえ、忍者は左手で短刀を、武士は両手で大小の刀を押さえ、町人や農民は着物の裾を左手でつまみあげ、摺り足で膝から下を後方に蹴つて走つた（女性は摺り足で速く歩く程度だった）。

日本人は基本的に農耕民族。鋤や鍬を使うときの動きは、右腕（左腕）が前に出れば、右足（左足）が前に出る。それは井戸から水を汲み

上げる滑車の綱を引くときと同じで、滑車が南蛮渡来だったため、その動きをナンバと呼ぶようになった。

歌舞伎の『勧進帳』での弁慶の「飛び六方」も、相撲の寄り身も突つ張りも、右手が前なら右足が前。江戸時代以前の「走り方」も「歩き方」も基本的にこのナンバの動きで、これに困つたのが幕末から明治時代、長州藩や明治政府が近代的な軍隊を創ろうとしたときのこと。

ナンバの動き（摺り足）では、脚（太腿）を前方に高く上げ、手を大きく振つての分列行進ができず、兵隊は匍匐前進もできない。腹這いで銃を両手で持ち、肘と膝を使つて前へ進む匍匐前進は、右肱（左肱）を前へ出すときは左足（右足）が前に出ないと真つ直ぐ動けない。そこで軍隊は太腿を高く上げ、手と足を左右別々に前方に出す、西洋式を徹底。その動きが体育教育で日本人全員に広まった。が、近年スポーツ界ではナンバ走法が見直されている。進歩とは過去がモデルになるケースもあるのだ。



# 夢劇場『馬』

No.27



爽やかな2分

長田渚左

不安、不明、不信……。

どうにもならない事態が次々と押し寄せてくる。

新型コロナウイルスの感染者数がようやく下降に転じた矢先、2月下旬にロシアがウクライナへ軍事侵攻し、いまだ収束が見えない。

国内に目を転じれば、日本海へ向けた北朝鮮の相次ぐミサイル発射に、震度5を超える地震の頻発と、途方に暮れるような事象ばかり続く中、競馬新聞を開くと妙に落ち着くことに気付いた。

理由はどんなレースにも必ず一頭、勝利する馬がいるからだ。スタートすれば2分ほどで常に明快な回答が出る。つまり、すつきりと爽やかなのだ。

レースで見たいものは、何ものにも替え難い、

その馬ならではの存在感。野性の走りだ。

4月10日の桜花賞、馬群を突いて、闘志をむき出しにしたスターズオンアースには痺れた。

「私を見て！見て！見て！……」。まるで自我の塊かたまりのような突進力。なぜ?!こんなに走つてしまうのか……心を驚擱おどろおどろみにされた。間違いなく、これは2015年の皐月賞とダービーを制したドウラメンテの娘。

ドウラメンテも皐月賞では4コーナーで外へ膨れ、他馬と接触しながらも、少しの怯みもみせずに進出した。

一方の5月22日・オークス。他馬のアクシデントで発走が15分も遅れた。ただならぬ雰囲気の中でスタミナを消耗する馬が続出したが、彼女だけは我関せず、馬耳東風。涼しい顔でレースに集中した。そしてまたしても大外から飛んできた。

「私を見て！見て！見て！」

とびきの野性。まさにスターズオンアース、「地上の星」に酔った。



## バックナンバーのご案内

バックナンバーを、直接お申し込みいただけます。ご希望の号と冊数を明記し、送料分の切手を左記にお送りください。

〒352-0011

埼玉県新座市野火止8-16-32

株式会社東美物流

『スポーツゴジラ』係

送料値上りのため45号より変更しました。

10冊まで 送料 400円

20冊まで 送料 700円

40冊まで 送料1200円

※特集の内容は本誌巻末カラーページとホームページに記載しています。

### 【ホームページ】

<http://sportsnetworkjapan.com/>

★お申し込みいただくとき『スポーツゴジラ』への感想もお書き添えいただけると幸いです。

次の秋号第56号は2022年10月

初旬刊行を予定しています。ご期待ください。

また、バックナンバーは品切表示の号も左記の図書館で読みになります。ご利用ください。

●世田谷区八幡山・大宅壮一文庫

●世田谷区深沢・日体大世田谷キャンパス図書館

●港区広尾・東京都立中央図書館

●千代田区永田町・国立国会図書館

●港区芝・東京都人権プラザ図書館

### 【理事】

五十嵐二葉（弁護士）／池井優（慶應義塾大学名誉教授）

／伊藤順蔵（早稲田大学名誉教授）

／岡田匡令（淑徳大学名誉教授）／長田渚左

（ノンフィクション作家）／笠原一也（日本オリンピック・アカデミー名誉会長）

／佐久間昇二（びあ株式会社取締役）

／重村一（㈱ニッポン放送取締役相談役）

／永井憲一（法政大学名誉教授）

／山口香（筑波大学教授）

／山口良治（京都工芸院高校ラグビー部総監督）

### 【事務局】

〒359-1192

埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15

早稲田大学スポーツ科学部 太田章研究室 気付

## 皆様、ご存じですか？

スポーツゴジラは年4回春・夏・秋・冬の季刊で発行。

都営地下鉄・大江戸線・浅草線・三田線・新宿線の各駅、全国の大学102カ所に設置されています。

## スポーツゴジラ®

2022年6月13日発行

第1巻第55号

無断転載・転売を禁じます

企画編集 スポーツネットワークジャパン

長田渚左・川本凜太郎・阿部雄輔

波多野圭吾・西本祥子・江川卓実

山内亮治・鈴木希人

制作 有限会社ナトリック

印刷・製本 株式会社 美松堂

発行 スポーツネットワークジャパン

お問い合わせは左記まで

特定非営利活動法人

スポーツネットワークジャパン

〒168-0063

杉並区和泉1-40-13-401